



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	新世紀を展望した魅力ある札幌市立高等学校のあり方について 第2次答申 参考資料 (札幌市立高等学校教育改革推進協議会 平成14年3月)
Citation	公教育システム研究, 2, 225-244
Issue Date	2002-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/22068
Type	departmental bulletin paper
File Information	2_P225-244.pdf



<資料>

新世紀を展望した魅力ある札幌市立高等学校のあり方について 第2次答申
参考資料
(札幌市立高等学校教育改革推進協議会 平成14年3月)

【解説】

この資料は、本誌前号に掲載した<資料>「新世紀を展望した魅力ある札幌市立高等学校のあり方について 第1次答申」(札幌市立高等学校教育改革推進協議会 平成13年5月)の続編である。前号の解説の繰り返しになる部分があるが、札幌市では、2000年8月に「札幌市立高等学校教育改革推進協議会」を設置して、札幌市立高校改革について審議を重ね、まず2001年5月、協議会は第1次答申をまとめ、札幌市教育長に提出した。次いで、2002年3月に提出されたのが、この第2次答申と参考資料である。

第1次答申は、札幌市立高校全体を通じる改革の推進方向と全日制課程の今後のあり方の2つが答申の主要な柱になっている。前者についてのポイントは、進路探究学習を高校教育の中心の1つにおくと提言したことである。札幌市立高校の全日制的普通科および商業科についてその今後の方向性を検討した後者に関しては、普通科の教育をより豊かにしていくために、「専門コース」制などの提案がなされ、また商業科については総合学科や学科集合型への転換の検討の必要性を述べている。

第2次答申では、次いで、札幌市立高校の定時制課程の今後のあり方と中高一貫教育について検討し、提言している。

前者については、定時制課程生徒の多様化と定時制課程の意義の変化を踏まえ、多様な生徒の実態に合わせた魅力ある新しいタイプの定時制課程設置の必要性を述べている。具体的には、習熟度別学習や少人数授業、体験的学習、多部制と転編入の弾力的運用などの方策があげられている。またこれを実現するために、現在ある市立高校の定時制課程を発展的に統合することも視野に入れる必要があると述べている。

後者については、中高一貫教育についての保護者アンケートが、中高一貫教育校に「ぜひ入学させたい」20%強、「どちらかといえば入学させたい」と合わせると60%が、中高一貫教育に肯定的であることをあげ、市民の間にニーズがあるとして導入の検討を進める必要があると述べながら、なおかつ懸念される課題も多く十分な研究が必要であるとしている。

第2次答申の水準がどの程度のものかは読者に判断を任せるしかないが、前号解説の言葉を繰り返せば、現在高校教育を高卒後の生徒各自の将来を見通すための幅広い総合的な学習と選択のプロセスとして位置付けることが重要になってきており、そうした方向で高校教育の改革を促進していくような視点をこの答申も共有しているとはいえないか。

解説者は、この協議会のメンバーとして札幌市立高校の今後のあり方について協議に加わってきた。近年の地方での高校改革論議の資料として、この第1次答申に続いて第2次答申と参考資料ををここに掲載させていただく。協議会の様子は前号解説に少し触れたので、それに任せたい。

札幌市では、市立高等専門学校を看護学校と統合して大学化する答申が別の有識者会議から提出されている。また2003年2月からは義務教育段階の教育振興計画を策定するための有識者会議が発足する予定である。一足先に出された市立高校改革のための答申とそれらが何らかの形で連携・継続していくものと思われ、それらによって札幌市の教育計画のグランドデザインの輪郭が描かれることとなるであろう。(横井敏郎)

新世紀を展望した魅力ある
札幌市立高等学校のあり方について

第2次答申

平成14年3月

札幌市立高等学校教育改革推進協議会

はじめに

当協議会は、平成12年8月、教育委員会から「魅力ある札幌市立高等学校のあり方について」諮問を受け、平成13年5月に改革推進のための基本方向及び全日制課程の今後のあり方について第1次答申を行った。

このたび、本協議会は、学校や保護者からの意見や専門部会による調査・研究の成果などを踏まえて、定時制課程の今後のあり方、札幌市における中高一貫教育のあり方、改革推進のための制度の改善などについて協議を重ね、第2次答申としてまとめた。

1 第1次答申後の協議の経過

当協議会は、第1次答申後に市立小中学校児童・生徒の保護者へのアンケート調査、専門部会における24回の検討会議及び道内外の視察を実施し、これらの資料をもとに、次のとおり6回の協議を行った。

第6回 第1次答申

今後の札幌市立高等学校定時制課程について【平成13年5月16日】

第7回 今後の札幌市立高等学校定時制課程について【平成13年7月3日】

第8回 今後の札幌市立高等学校定時制課程について【平成13年8月28日】

第9回 札幌市における中高一貫教育について【平成13年10月24日】

第10回 札幌市における中高一貫教育について

改革推進のための制度の改善などについて【平成13年12月13日】

第11回 第2次答申案の検討【平成14年3月26日】

2 定時制課程の今後のあり方について

高等学校定時制課程は、その発足以来、勤労青少年のための教育機関としての役割を担ってきたが、今日、社会・経済状況の大きな変化により、勤労青少年だけではなく、様々なニーズを持った生徒が在籍しており、その果たすべき役割は多様化している。そのため、勤労青少年のニーズやライフスタイルに合わせた従来の定時制課程の枠のみにとらわれない、新しいタイプの定時制課程への転換を早急に進める必要がある。

(1) 市立高等学校定時制課程の現状と課題

高等学校定時制課程に学ぶ生徒の中には、中学校新卒者だけではなく、社会人経験者、高等学校を中途退学した者、中学校や高等学校において不登校傾向にあった者など多様な経歴や目的を持つ者も多く、自らの価値観やライフスタイルに適合するものとして、定時制課程を積極的に選択する傾向も強まっている。このため、生徒の興味・関心、能力・適性、希望する学習内容・学習時間帯等の多様化が一層進んでいる。

今後、市立高等学校定時制課程は、これまでの勤労青少年に対する教育機関としての役割に加えて、これら多様なニーズを持つ生徒に柔軟に対応し、後期中等教育の機会を幅広く提供する教育機関としての役割を併せ持つことが必要である。

(2) 魅力ある新しいタイプの定時制課程について

生徒一人ひとりの実態やニーズに応じた学習時間帯、履修形態、学習内容等を実現するためには一定の規模が必要であり、そのためにも現在の市立高等学校定時制課程を発展的に統合することも視野に入れ、従来とは異なる新しいタイプの定時制課程に転換する必要がある。なお、その定時制課程においては、以下の取組みを積極的に推進する必要がある。

- ① 習熟度別学習や少人数授業などを通じて、生徒一人ひとりの学習進度に応じたきめ細かな指導を行うなど、基礎基本の定着を図るとともに、生徒の興味・関心、進路希望等に応じた特色ある選択科目を多数開講する。
- ② インターンシップ、ボランティア活動などの体験的な学習を実施するとともに、社会人講師を活用するなど、社会とのかかわりの中で生徒の主体的な進路探究を促す。また、生徒が将来に役立てることができるような資格取得にも対応する。
- ③ 午前部、午後部、夜間部などの多部制の導入や、各部間の履修を可能とするなど、生徒のニーズに応じた学習時間帯を設ける。
- ④ 単位制の導入などにより、生徒の科目選択を大幅に拡大するとともに、ガイダンス機能や生活全般にわたる支援等、細やかな指導体制に配慮する。
- ⑤ 4年以上で卒業することに加え、自校での単位修得のみによって3年で卒業できる仕組みや、履修や修得できなかった科目の再履修制度の導入など、生徒自らのペースに合わせた学習を可能とする。
- ⑥ 専門的な知識を有するスクールカウンセラーを配置するとともに、教員の研修機会の拡充を図り、学校全体としてのカウンセリング体制を充実させる。
- ⑦ 入学者選抜の時期や選抜方法を見直し、多様な入学動機を持った生徒に対応する。また、転編入学制度の弾力的な運用を図るなど、中途退学者等の受入れに十分配慮する。
- ⑧ 社会人の科目履修生の受入れにも十分配慮する。

3 市立の中高一貫教育について

中高一貫教育については、中等教育の一層の多様化を推進するため、本市に適する教育内容や設置形態を踏まえて、生徒や保護者がこれまでの中学校・高等学校に加え、6年間の中高一貫教育も選択できるよう、その導入について検討を進める必要がある。

(1) 中高一貫教育の導入について

中高一貫教育については、「高校入試の影響を受けずゆとりある安定的な学校生活を送れる」などの意義があると考えられる。

市立小中学校児童・生徒の保護者へのアンケート調査結果においては、中高一貫教育校に「ぜひ入学させたい」が20%強、「どちらかといえば入学させたい」との回答を合わせると60%であった。

一方、「12歳で中高一貫校と一般の中学校を選択するのは困難だから」、「6年間同じ人間関係の中で過ごすのは良くないと思うから」、「大学への受験準備に偏った教育が行なわれそうだから」との理由から「おそらく入学させない」、「入学させない」との回答が合わせて20%程度であった。(資料「市立高校今後のあり方に関するアンケート調査」参照)

このことから、本市においては、中高一貫教育に対するニーズはあるものと考えられ、生徒や保護者の中等教育に係る選択肢を拡大する観点から、その導入の検討を進める必要がある。しかしながら、懸念される課題も多いことから、これらの解決の方途を十分に研究すべきである。

なお、設置形態については、中高一貫教育の利点を最も生かすことができる中等教育学校を中心に検討することが望ましい。

(2) 中高一貫教育の教育内容について

第1次答申では、市立高等学校全日制課程にあつて、体験的な学習により将来の社会的自立と、「生き方」を考えさせる進路探究学習、豊かな国際感覚を育むための教育、情報化の進展に対応する教育などをより一層充実させる必要があることを提言した。

また、今後の市立高等学校のあり方に関する保護者へのアンケート調査結果において、市立高等学校に対しては、「外国語によるコミュニケーション能力の育成」、「コンピュータや情報に関する学習」、「医療や福祉に関する学習」の充実や「職業体験（インターンシップ）」、「ボランティアに関する体験」、「介護や看護などの福祉に関する体験」、「海外でのホームステイなどの国際交流体験」などの体験的な学習の導入を期待していることなどが明らかとなった。

このことから、本市における中高一貫教育の内容については、高等学校入試に影響されず、ゆとりを生かした計画的・継続的な教育指導が展開できる利点を生かして、進路探究学習、コミュニケーション能力の育成、情報活用能力の育成を目指した学習の充実や体験的な学習を充実することが望ましい。

4 改革推進のための制度の改善などについて

市立高等学校を「意味のある学習の場」、「魅力ある学習の場」とするためには、各学校の教育内容における特色づくりとともに、それを支える諸制度の改善や教育改革の推進に向けた教員の研修等を充実させる必要がある。

(1) 通学区域・入学者選抜・転編入学制度について

今後、市立高等学校が魅力ある学校づくりを推進するにあたって、その特色に応じた通学区域や入学者選抜及び転入学・編入学の方法について、十分検討する必要がある。

① 通学区域について

普通科「専門コース」や普通科単位制などの特色ある教育内容を持つ学校にあっては、市内一円から受験できるよう、通学区域を拡大する必要がある。

② 入学者選抜について

入学者選抜方法の多様化を推進するため、普通科への推薦入学制度の導入を図る。また、国際都市としての札幌には、外国籍の生徒や海外からの帰国生徒がおり、国際系の特色を持つ高等学校や多様な生徒に対応する新しいタイプの定時制課程にあっては、これらの生徒を対象とした特別な入学者選抜方法の導入を図る。

③ 転入学・編入学について

保護者の転勤等に伴う生徒の転入学については十分配慮するとともに、新しいタイプの定時制課程などにあつては、特別な事情による転入学を可能とすることや、社会人・中途退学者等の編入学の方法について工夫するなど転編入学制度の見直しを行う。

(2) 地域社会との連携による学校づくりの推進

国際化、情報化、少子高齢化の進展など社会の変化が進み、生徒の職業意識等も大きく変化している中で、より一層、社会とのかかわりを重視した教育が求められている。これらのことから、今まで以上に学校と地域社会が幅広く連携し、インターンシップをはじめ、地域の多様な教育資源や人材を活用した教育・学習活動をより一層推進する必要がある。

(3) 高等学校間及び高大連携について

それぞれの市立高等学校の特色ある授業や活動を相互に活用する市立高等学校間の連携や、自己の将来を考えるための学習を可能とする大学・専修学校等との連携など、単位認定を含めて学校間連携を一層推進する必要がある。

(4) 改革推進のための教員の意識、研修等について

学校が、生徒にとって「意味のある学習の場」であり「魅力ある学習の場」となるためには、教育内容や制度の改善等とともに、教育改革の推進に向けた教職員の意識改革や資質・能力の向上が不可欠である。

その実現に向けて、カウンセリングに関する研修、大学や企業等での研修など、様々な機会を通じて教職員一人ひとりが自己改革を図る必要がある。

おわりに

この答申では、多様な生徒の実態に対応した新しいタイプの定時制課程への転換、中高一貫教育の導入についての検討や改革を支える制度の改善等についても提言した。市立高等学校が、未来を担う生徒にとって「意味のある学習の場」、「魅力ある学習の場」となるためには、教育委員会がその施策を着実に計画・実行することを期待するものである。

参 考 资 料

札教学第636号

平成12年8月1日

札幌市立高等学校教育改革推進協議会

会 長 村 山 紀 昭 様

札幌市教育委員会

教育長 山 恒 雄

新世紀を展望した魅力ある札幌市立高等学校のあり方について（諮問）

社会・経済の枠組みが大きく変わりつつある現在、高等学校教育は、これまでの成果を踏まえながら、新たな時代に適合し、これを先取りする改革を積極的に推進する必要があります。このため、札幌市立高等学校教育改革推進協議会設置要綱第3条の規定に基づき、新世紀を展望した魅力ある札幌市立高等学校のあり方について、貴協議会の御意見を賜りたく諮問いたします。

札幌市立高等学校教育改革推進協議会名簿

(敬称略・五十音順)

	氏 名	所 属
会長	村山 紀昭	北海道教育大学長
副会長	綾井 健二	元・北海道札幌旭丘高等学校長
	岩井 滉	株式会社 岩井信六商店社長
	大久保 克洋	北海道札幌開成高等学校教頭
	緒方 紀子	北海道札幌清田高等学校教諭
	小野 昭紘	北海道札幌平岸高等学校長
	加清 吉宣	札幌市立向陵中学校長
	岸 信行	北海道札幌旭丘高等学校PTA会長
	北原 敬文	札幌市立白石中学校長
	近藤 建治	北海道札幌星園高等学校教頭
	佐々木 雅男	北海道札幌新川高等学校教諭
	佐藤 真理子	北海道札幌藻岩高等学校教頭
	島 隆	北海道札幌旭丘高等学校長
	鈴木 恵一	北海道札幌啓北商業高等学校教諭
	相馬 茂美	札幌市PTA協議会監事
	野尻 桂子	札幌市立新陽小学校長
	林 美香子	フリーキャスター
	三井 貴之	札幌市立高等学校教職員組合執行委員長 北海道札幌旭丘高等学校教諭
	横井 敏郎	北海道大学教育学部助手

市立高等学校の今後のあり方に関する保護者へのアンケート調査の結果について

平成13年9月実施

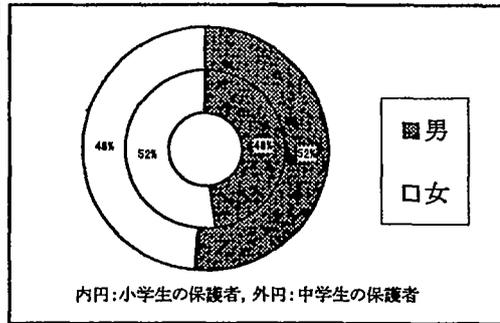
アンケートの実施状況について

学校種別	児童生徒数A (小5+中2)	対象人数B	実施率 B/A	有効回答数C	有効回答率 C/B
小学校	16,642	1,550	9.31%	1,151	74.3%
中学校	18,054	1,994	11.04%	1,460	73.2%
合計	34,696	3,544	10.21%	2,611	73.7%

※ 児童生徒数については、平成13年5月1日現在の在籍数である。

(1) アンケートにご回答くださった保護者のお子さまの性別

	小学校		中学校		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
男子	546	48.1%	750	51.5%	1,296	50.0%
女子	590	51.9%	706	48.5%	1,296	50.0%
計	1,136	100%	1,456	100%	2,592	100%



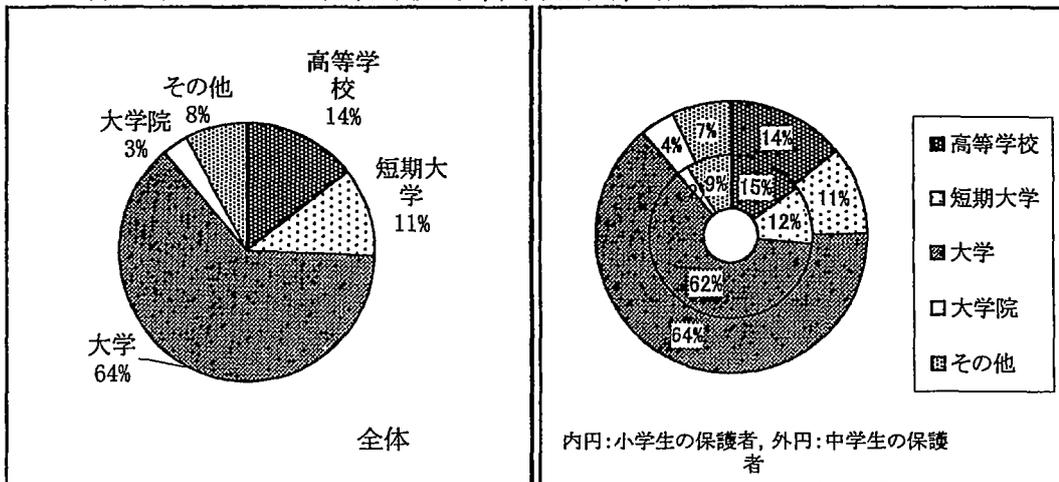
(2) 将来、お子さまをどの段階の学校まで進学させたいとお考えですか。1つ選んでください。

- 1 高等学校
- 2 短期大学
- 3 大学
- 4 大学院
- 5 その他

	小学校		中学校		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
高等学校	170	14.9%	205	14.1%	375	14.5%
短期大学	135	11.8%	153	10.5%	288	11.1%
大学	708	62.1%	933	64.3%	1,641	63.3%
大学院	27	2.4%	60	4.1%	87	3.4%
その他	101	8.9%	101	7.0%	202	7.8%
計	1,141	100%	1,452	100%	2,593	100%

※その他について多いのは、

- ・専門学校 106人(小学校46人,中学校60人),全体の4.1%
- ・本人の希望による 84人(小学校52人,中学校32人),全体の3.2%



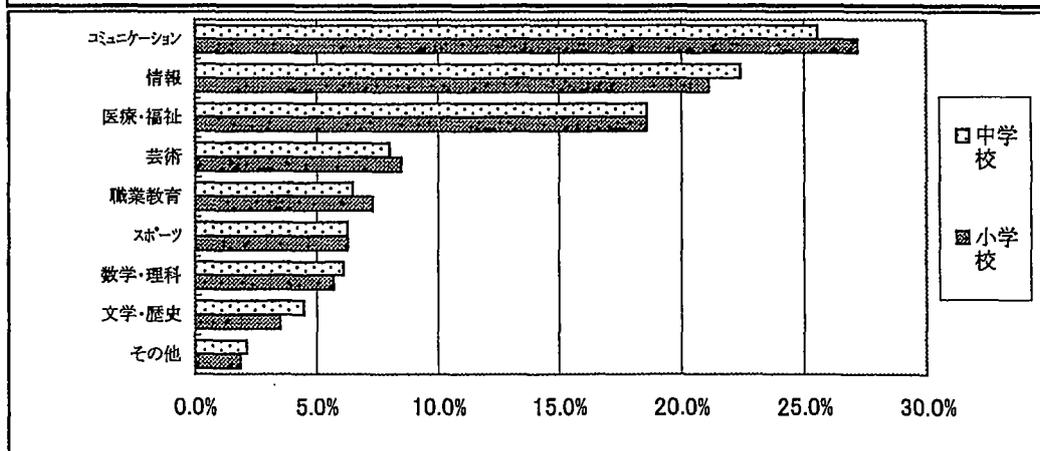
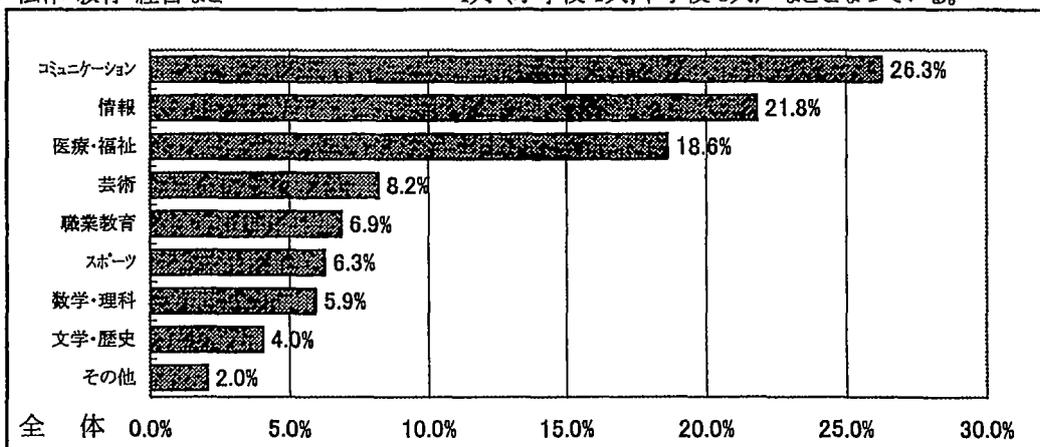
(3) 当協議会では、生徒が興味ある分野の学習を深めることにより、一層、意欲的な学習が促されると考えておりますが、将来、お子さまにどのような分野の学習を深めさせたいとお考えですか。2つ以内で選んでください。

- 1 外国語によるコミュニケーション能力の育成や国際理解教育の学習
- 2 文学や歴史などの内容を重視した学習
- 3 数学や理科などの内容を重視した学習
- 4 スポーツなどに関する学習
- 5 音楽や美術などの芸術に関する学習
- 6 コンピュータや情報に関する学習
- 7 医療や福祉に関する学習
- 8 商業や工業などの職業教育に関する学習
- 9 その他

	小学校		中学校		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
コミュニケーション能力育成等	607	27.2%	717	25.6%	1,324	26.3%
文学・歴史	78	3.5%	125	4.5%	203	4.0%
数学・理科	127	5.7%	171	6.1%	298	5.9%
スポーツ	140	6.3%	175	6.2%	315	6.3%
芸術	189	8.5%	224	8.0%	413	8.2%
情報	471	21.1%	628	22.4%	1,099	21.8%
医療・福祉	415	18.6%	522	18.6%	937	18.6%
職業教育	163	7.3%	182	6.5%	345	6.9%
その他	42	1.9%	60	2.1%	102	2.0%
計	2,232	100%	2,804	100%	5,036	100%

※その他について多いのは、

- ・ 子どもが興味ある分野 35人 (小学校16人, 中学校19人)
- ・ 環境・動物など自然に関する事 16人 (小学校 6人, 中学校10人)
- ・ 服飾・デザイン・料理・栄養などに関する事 10人 (小学校 6人, 中学校 4人)
- ・ 一部に偏らないことが重要 6人 (小学校 4人, 中学校 2人)
- ・ 法律・教育・経営など 4人 (小学校 1人, 中学校 3人) などとなっている。



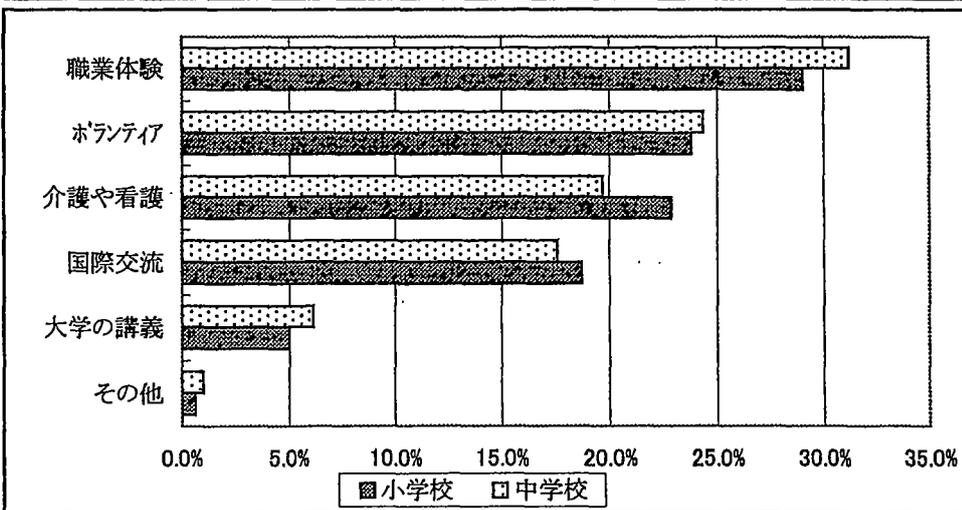
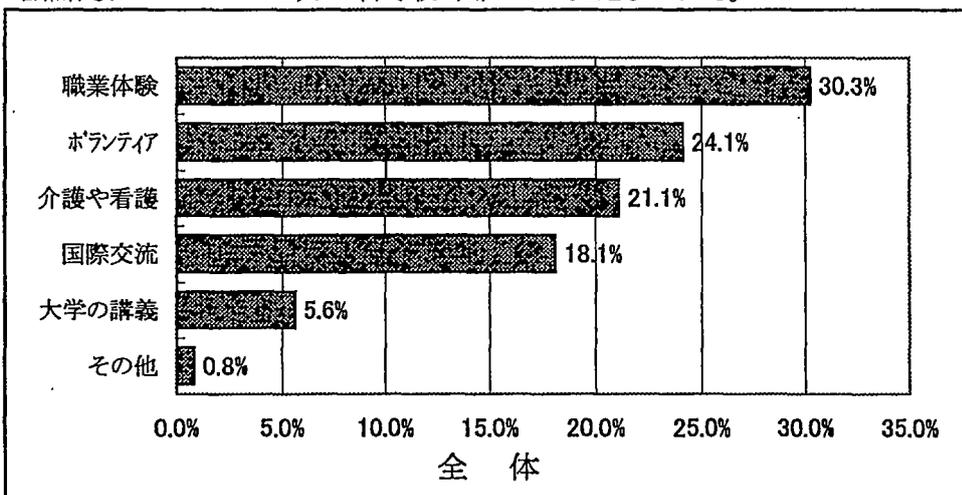
(4) 当協議会では、将来の社会的自立や「生き方」を考えることができるよう、職業観や人生観を考えさせる進路探究のための学習を積極的に行う必要があると考えております。その実現に向けて下記のような体験的な学習が考えられますが、将来、お子様が高校生になったらどんな体験が必要だと思いますか。2つ以内で選んでください。

- 1 職業体験(インターンシップ)
- 2 ボランティアに関する体験
- 3 大学の講義などの体験
- 4 介護や看護などの福祉に関する体験
- 5 海外でのホームステイなどの国際交流に関する体験
- 6 その他

	小学校		中学校		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
職業体験	650	29.0%	878	31.2%	1,528	30.3%
ボランティア	532	23.8%	685	24.4%	1,217	24.1%
大学の講義	112	5.0%	173	6.2%	285	5.6%
介護や看護	511	22.8%	554	19.7%	1,065	21.1%
国際交流	419	18.7%	495	17.6%	914	18.1%
その他	14	0.6%	28	1.0%	42	0.8%
計	2,238	100%	2,813	100%	5,051	100%

※その他について多いのは、

- ・本人の希望する体験 6人 (小学校 1人, 中学校 5人)
- ・育児・保育体験 2人 (小学校 2人)
- ・自然体験 2人 (中学校 2人) などとなっている。



(5) 当協議会では、市立高校全体の目標として、豊かな国際感覚を育むための教育が重要だと考えております。その実現のために、下記のような学習が考えられますが、将来、お子さまが高校生になったら、どの学習をさせたいと思いますか。2つ以内で選んでください。

- 1 外国人講師などによる英語学習
- 2 少人数グループによる英語学習
- 3 英語以外の外国語の学習
- 4 海外体験学習
- 5 異文化を理解するための学習
- 6 その他

	小学校		中学校		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
外国人講師	703	31.8%	877	31.3%	1,580	31.5%
少人数授業	447	20.2%	607	21.7%	1,054	21.0%
英語以外の外国語	84	3.8%	125	4.5%	209	4.2%
海外体験学習	461	20.8%	548	19.6%	1,009	20.1%
異文化理解	499	22.5%	626	22.3%	1,125	22.4%
その他	19	0.9%	20	0.7%	39	0.8%
計	2,213	100%	2,803	100%	5,016	100%

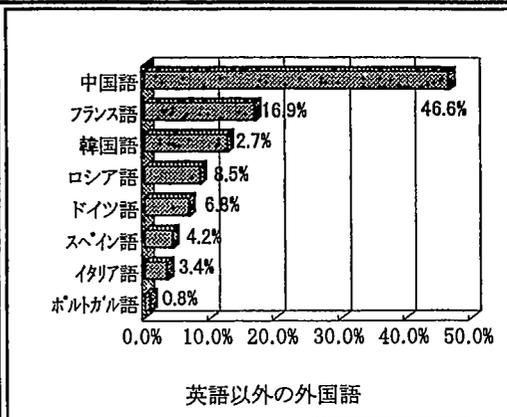
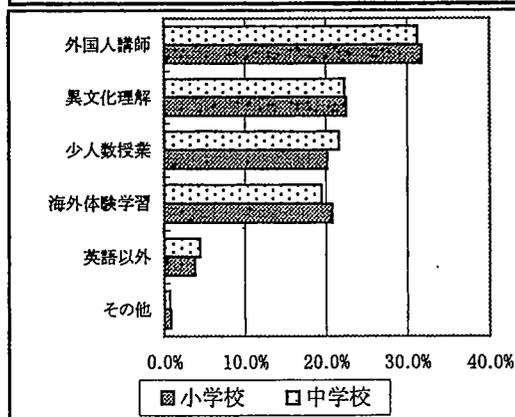
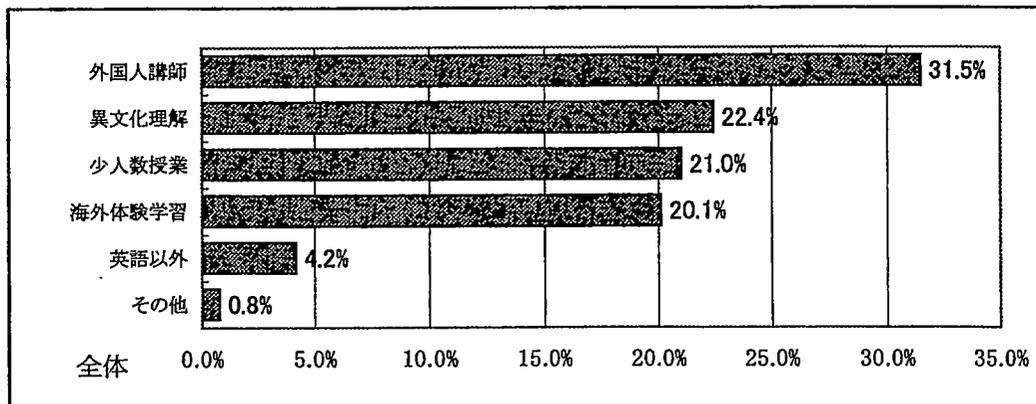
※その他について多いのは、

- ・日本文化の学習 4人
(小学校3人,中学校1人)
 - ・外国から見た歴史 3人
(小学校1人,中学校2人)
 - ・在日の外国人との交流 3人
(小学校2人,中学校1人)
 - ・ディベート 2人
(小学校1人,中学校1人)
- などとなっている。

3 英語以外の外国語の学習

外国語名	小学校		中学校		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
中国語	15	36.6%	40	51.9%	55	46.6%
フランス語	9	22.0%	11	14.3%	20	16.9%
韓国語	6	14.6%	9	11.7%	15	12.7%
ロシア語	4	9.8%	6	7.8%	10	8.5%
ドイツ語	3	7.3%	5	6.5%	8	6.8%
スペイン語	2	4.9%	3	3.9%	5	4.2%
イタリア語	2	4.9%	2	2.6%	4	3.4%
ポルトガル語	0	0.0%	1	1.3%	1	0.8%
計	41	100%	77	100%	118	100%

※無回答者91人



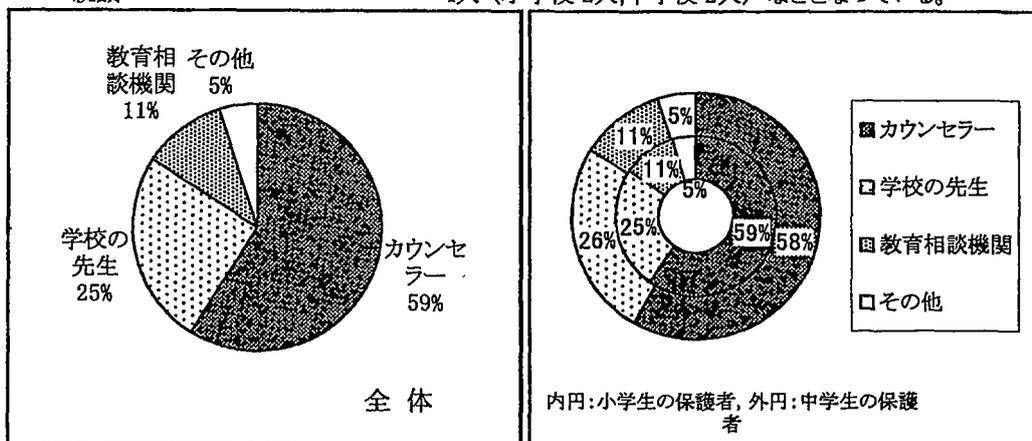
(6) 将来、お子さまが高校生になった時、悩みの相談窓口として、最も期待するのはどれですか。1つ選んでください。

- 1 学校の先生
- 2 専門のカウンセラー
- 3 学校以外の教育相談機関
- 4 その他

	小学校		中学校		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
学校の先生	280	24.6%	369	25.6%	649	25.1%
カウンセラー	682	59.8%	840	58.2%	1,522	58.9%
教育相談機関	124	10.9%	160	11.1%	284	11.0%
その他	54	4.7%	74	5.1%	128	5.0%
計	1,140	100%	1,443	100%	2,583	100%

※その他について多いのは、

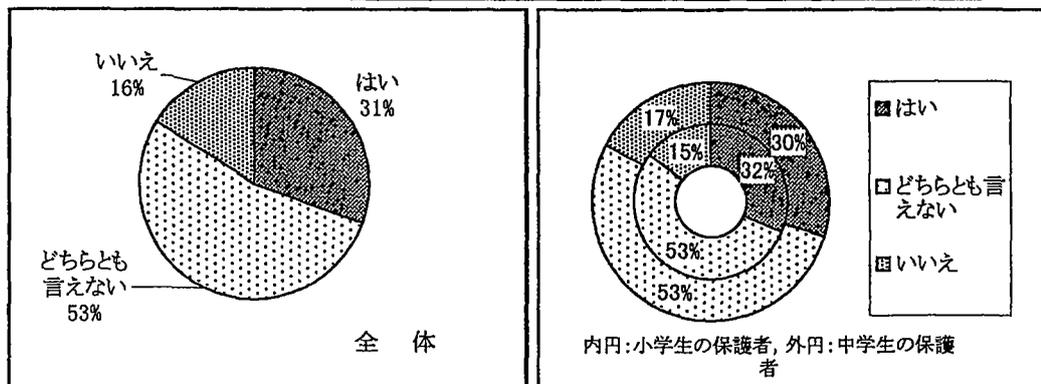
- ・親(父,母含む) 38人 (小学校16人,中学校22人)
- ・友人・先輩 27人 (小学校11人,中学校16人)
- ・家族 15人 (小学校 5人,中学校10人)
- ・知人 7人 (小学校 4人,中学校 3人)
- ・悩み別に相談相手がいれば 6人 (小学校 3人,中学校 3人)
- ・信頼できる人ならだれでも 5人 (小学校 4人,中学校 1人)
- ・親戚 4人 (小学校 2人,中学校 2人) などとなっている。



(7) 新しいタイプの高校として単位制の高校があります。お子さまに単位制の高校で学ばせたいと思いますか。1つ選んでください。

- 1 はい
- 2 どちらともいえない
- 3 いいえ

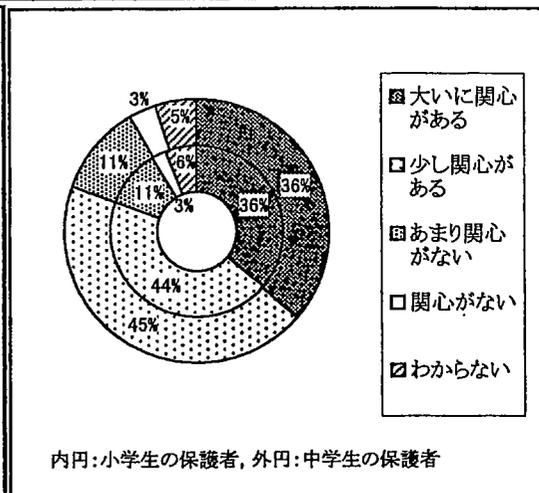
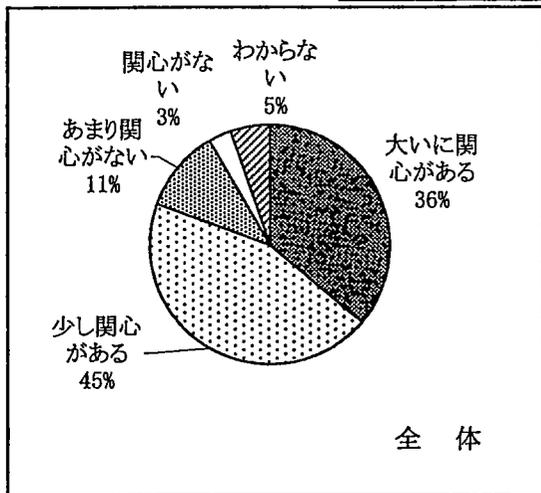
	小学校		中学校		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
はい	361	31.5%	434	29.8%	795	30.5%
どちらとも言えない	615	53.7%	773	53.0%	1,388	53.3%
いいえ	170	14.8%	251	17.2%	421	16.2%
計	1,146	100%	1,458	100%	2,604	100%



(8) 公立の「中高一貫教育校」(下記の概略を参照)の設置が制度的に可能となっておりますが、あなたはこのことにどの程度関心がありますか。1つ選んでください。

- 1 大いに関心がある
- 2 少し関心がある
- 3 あまり関心がない
- 4 関心がない
- 5 わからない

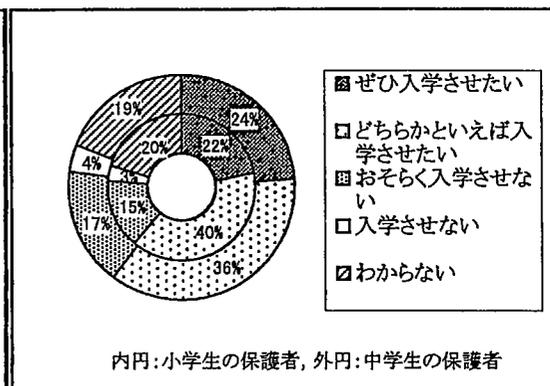
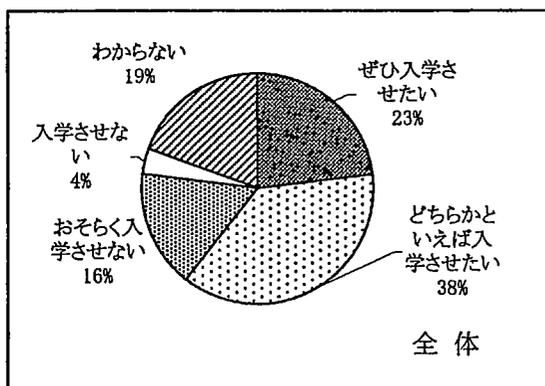
	小学校		中学校		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
大いに関心がある	413	36.0%	528	36.4%	941	36.2%
少し関心がある	511	44.6%	642	44.2%	1,153	44.4%
あまり関心がない	123	10.7%	161	11.1%	284	10.9%
関心がない	32	2.8%	49	3.4%	81	3.1%
わからない	68	5.9%	71	4.9%	139	5.4%
計	1,147	100%	1,451	100%	2,598	100%



(9) あなたは、公立の中高一貫教育校があれば、お子さまを入学させたい、あるいはさせたかったと思いますか。1つ選んでください。

- 1 ぜひ入学させたい(させたかった)
- 2 どちらかといえば入学させたい(させたかった)
- 3 おそらく入学させない(させなかった)
- 4 入学させない(させなかった)
- 5 わからない

	小学校		中学校		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ぜひ入学させたい	251	22.0%	347	23.9%	598	23.1%
どちらかといえば入学させたい	448	39.2%	527	36.3%	975	37.6%
おそらく入学させない	174	15.2%	247	17.0%	421	16.2%
入学させない	37	3.2%	57	3.9%	94	3.6%
わからない	232	20.3%	273	18.8%	505	19.5%
計	1,142	100%	1,451	100%	2,593	100%



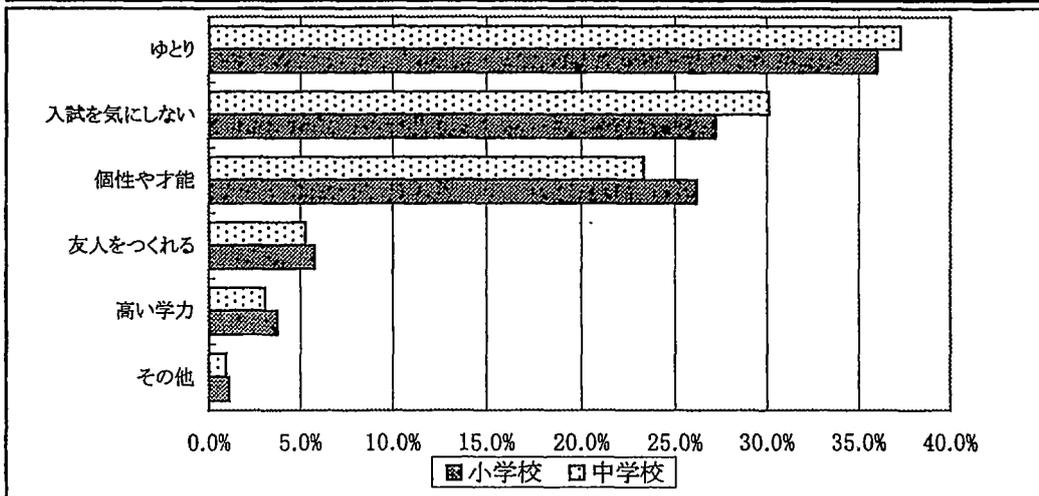
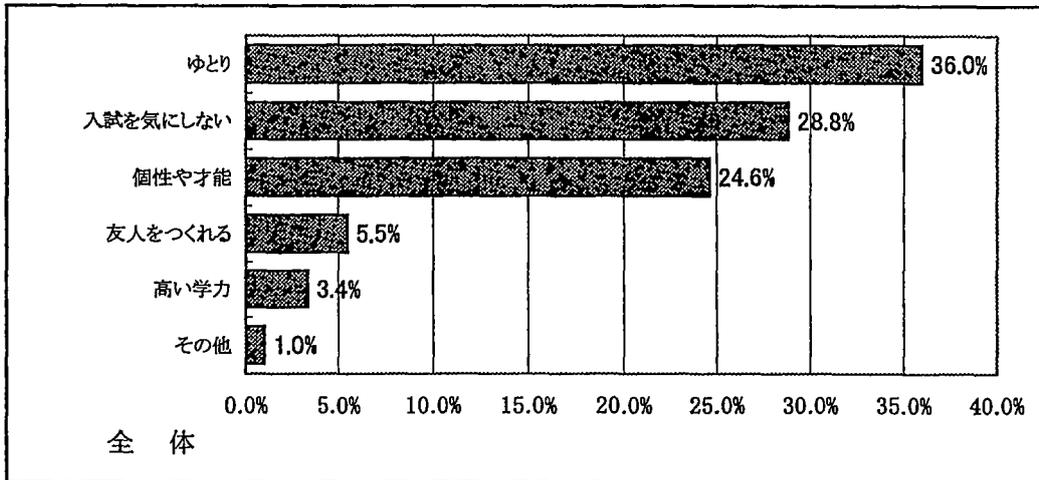
(10) (9)で「ぜひ入学させたい」、「どちらかといえば入学させたい」を選んだ方に伺います。その理由はなんですか。2つ以内で選んでください。

- 1 高校入試を気にしなくてすむから
- 2 ゆとりある学校生活が送れるから
- 3 高い学力が身につくから
- 4 個性や才能がのびせるから
- 5 6年間の間に親しい友人を作れるから
- 6 その他

	小学校		中学校		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
高校入試を気にしない	373	27.2%	511	30.1%	884	28.8%
ゆとりある学校生活	493	36.0%	632	37.3%	1,125	36.7%
高い学力が身につく	51	3.7%	52	3.1%	103	3.4%
個性や才能がのびせる	359	26.2%	396	23.3%	755	24.6%
6年間の間に友人をつくれる	79	5.8%	89	5.2%	168	5.5%
その他	15	1.1%	16	0.9%	31	1.0%
計	1,370	100%	1,696	100%	3,066	100%

※その他について多いのは、

- ・現在の中学校が抱える問題を解決してくれそうだから(入試, 個に応じた指導, 対教師関係など) 12人(小学校6人, 中学校6人)
- ・学習・進路などの継続的な指導に期待する 10人(小学校4人, 中学校6人)
- ・選択肢が拡大する 3人(小学校5人, 中学校3人)
- ・新しい試みに期待する 2人(小学校1人, 中学校1人)などとなっている。



(11) (9)で「おそらく入学させない」、「入学させない」を選んだ方に伺います。その理由はなんですか。2つ以内で選んでください。

- 1 中学入学にあたって、子どもに入学
者選考を経験させたくないから
- 2 大学への受験準備に偏った教育が
行われそうに思うから
- 3 12歳で中高一貫教育校と一般の中
学校を選択するのは困難だから
- 4 6年間(13歳から18歳まで)の長い
期間、同じ人間関係の中で過ごす
のは良くないと思うから
- 5 その他

	小学校		中学校		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
中学での選抜の経験	61	13.9%	101	16.1%	162	15.2%
受験に偏った教育になりそう	67	15.3%	102	16.2%	169	15.8%
12歳での選抜は困難	144	32.9%	193	30.7%	337	31.6%
同じ人間関係は良くない	130	29.7%	204	32.4%	334	31.3%
その他	36	8.2%	29	4.6%	65	6.1%
計	438	100%	629	100%	1,067	100%

※その他について多いのは、

- ・いじめが長く続く可能性がある 11人 (小学校 8人, 中学校 3人)
- ・高校入試を経験することは大切 10人 (小学校 5人, 中学校 5人)
- ・高校段階で進路を選択することは大切 8人 (小学校 5人, 中学校 3人)
- ・内容がよくわからないので不安である。 5人 (小学校 3人, 中学校 2人)
- ・12歳から18歳までいっしょにいることに不安 2人 (小学校 1人, 中学校 1人) などとなっている。

